

杜若

特 別
チ 12
3656
11



目録



是の二誤國一見の倍少くはわ
は君ハ都小人ひそ河湯乃ふ所
四記強りあく一見仕りてふ又

是よりわ東國に時と心く人

る行

あまふりかすれともかあ
ゆあハくおうわ花づく富
あまふりかすれともかあ
うき総乃るの於りり三川國よ

ハ橋とて杜の必所少く
さへりふら杜のいなまむ
花乃必所をいさもひと
こむとさき乃あへて乃うたの
ゆらとも思ひあうへ
一とわわきなまめ新入り
登心ふの橋人やあ
く

三川國ハツ一乃うあはつこ
古教りもよま神くるとか
り川を舟舟人乃言能業やん
歌度あうん 伊勢物語
いとと爰哉ハ橋といひくさ
あり川乃ともてを能ハ橋をハ
渡きあまわを深し杜ののり

於ゆーろくをさしこたをさしこる哉
 あゆひと杜をとりしる文字を
 句乃のまをたをくひおひを
 よめとつひけし
 きはしなれし
 けさくきめ糸結をーう思ふ
 是を原のちひりのは杜を
 詞

傍一舟なわ あし枝もーろや
 ぬわひーくさわ結ひくるる
 ぬわひーくさわ結ひくるる
 ぬわひーくさわ結ひくるる

七和

はハ糖乃ちー乃見りおなも
 心乃おくぬうきさ必所く
 すー 國の感ハおなけし

とわや羨心のまうけし思ひ
まよひしハ橋乃三川於源の
つぎの心をけりきぬ
様をしうおひ乃を世よ
踐しぬハ音よなわひら
なまめしうこお花ハいま
さく心を原に流るへさる

杜るく源を水乃流る
らきこも人もハ橋おともてふ
あう思ひるもとも橋人よ
音をうこはるのくれや
なれぬ心うましく
尸ハ美するおハ何よりさる
見若しとくせわらわの菴を

レテ

早月

一葉茂御ありーらん あ

う襦一や打面まるらんー

なふくは冠衣清瑠んらん

うーききおひやーきき流の

うーとふらさもかへる衣を

あふさひひお冠を着ーは

見もとうけたまはるる御らん

うーなるもあをらん 是あ

はあよよも神くくるころも

言子お后乃は衣まらん又は

冠ハなるわひら乃冬のおらん乃

子言乃舞お冠を流らんこの

冠衣方ふらんもちて人なわ

らんわらんまぬいせんをまぬ

早

早

早

早

早

お：内方ハめろ成人ヲ 海ハ
おハ杜ガ能情あわう命をき
音能音ハ杜ガとも見も女能
う能音ハにふもいソ能ハ
言能あわ又なわひの能樂の
能舞能音能乃能現能能ハう見
をく和音乃言の能もももも

法ヲ能法乃能久能進ハ能年本
とと露能めく見能佛果の能を
ととふふなわ 能ハ能世能
能持能まき一能非能乃能来
言能能ハ能法ハ能佛能を
能ハ能葉能能ハ能ハ能ハ能
能ハ能 是う寸能ハ能能能

菩薩のうわふおまると業平乃
本比麻光乃都をひそく著く
海原利重乃かろちよきこ
きぬ糸唐衣くきはくや業成
のな流らんまう被くは乃
恨乃唐衣袖成教よぬきりや
おは物かこるまはりを後人の

何事よまじりておもひの露お
志のふ山遊ひてかよふは堂乃
りめもあくをころもあ
菅男うぬかありしをさる業
あわ乃きとしり志あしにて
うわよぬふくわ江明大皇妹
は守りともよらぬか

物にうけて大ぬ山のまうん
や孫まおるーめはう
うんりのまはわは物使として
可きひうひお冠をゆるさる
天孫惠乃總き申へ履上もて
之服お事申道時を倒まは
加ふる井か少わはアとうや

名三

然とも世中お一うひのまう
一うひのれとは依程乃は
あわゆるおれり急可こと
まむとく東のまよお電お
神智や危張おうまはうふ
波をえそいとく
うゝ乃慈愛よろやま

下
 海は波うねとらめ申さハ
 志たものなるあさまの嶽が嶽也
 上
 くゆりくわめ申ふきしき
 相あらう信流なる海留のたぐよ
 へは燈をちこちひとのちやを
 とらめぬとすきこがをく
 猿衣三川國よ蒸しりちらう

へはあはハ橋乃海をりし旬ふ
 へは川さし花むしちきいりゆり
 へはさしはさしあるやと思ひう
 いはる都人然るよは物海を思
 おかきしもかきしもわち黄は
 ハ橋也三川乃水おうこ井あ
 契し人しおぬしよ名をう

